

第 16 回 AAAP 大会参加報告

京都大学大学院農学研究科 安在弘樹

去る 2014 年 11 月 10 ～14 日、インドネシア・ジョグジャカルタ・ガジヤマダ大学で開催された第 16 回 AAAP 大会に参加し、”Use of GPS and GIS for Estimating Grazing Pattern of Yak in Western Nepal, Himalaya” というタイトルで口頭発表を行いましたので、その模様をご報告いたします。

《発表の概要》

ヒマラヤ地域における主要家畜であるヤクは、季節によって異なる放牧地を利用する移牧によって飼養されています。しかし、地理的制約によるデータ収集の困難さからヤクの放牧行動・管理に関する定量的な情報は不足しています。そこで本研究では GPS 首輪や GIS 技術を用いてヤクの移牧形態および放牧活動の推定を行いました。

ネパール西部ムスタン県で飼養されている 4 頭のヤクに GPS 首輪を装着し、2012 年 12 月～2014 年 4 月の位置情報を 10 分間隔で収集しました。GIS ソフトを用いて、収集した位置データにおける①標高の抽出、②その軌跡からの移動距離の算出、および③2 か月ごとの放牧面積の推定を行いました。

分析の結果、①ヤクは 5 月～10 月には標高 3,400～4,600m の夏季放牧地を、11 月～4 月には標高 2,500～3,400m の冬季放牧地を利用しており、②夏季における移動距離は 3.1km/day と冬季の 2.3km/day に比べ長く、③夏季の放牧面積は 400ha と冬季の 150ha より広いということが明らかとなりました。これらの結果から、牧草が豊富で温暖な夏季には、牧草が不足し寒冷な冬季に比べ、ヤクは活発に行動し、より広い範囲で探索行動を行うことが示され、ヒマラヤのような厳しい環境下において家畜の放牧行動を定量的かつ長期的に捉えるうえで、GPS・GIS が有用なツールとなることが示唆されました。

《発表の状況》

今回はタイでの前回大会に引き続き 2 度目の英語での発表だったので、前回より落ち着いて、満足のいく発表をすることができました。私の演題は「ヤク、GPS、GIS、放牧、行動圏」をキーワードとしており、他の演題と共通するものが少なかったため、興味を持って聞いていただけるか心配していましたが、質疑時間およびセッション終了後に多くの方にご質問、ご意見、ご指摘を頂き、議論を行うことができました。座長には「今度、私もヒマラヤに連れて行って！」と言ってくれなど、多くの方々に自分の研究に関心を持っていただくことができたと思います。



《大会の感想》

多くの国の方々の研究発表を見聞きし、現在の畜産研究の国際的なトレンドを感じると同時に、今後の自身の研究方針に対する刺激を受けることができました。さらに、各国の研究者や開催地の学生との交流を大いに楽しみ、インドネシアの文化や風土を満喫することができ、今後も国際学会に積極的に参加したいと思える貴重な経験となりました。最後に、本大会の参加にあたりプレゼンテーションアワードを授与してくださった日本畜産学会の関係者の皆様、大会中にお世話になった諸先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

